

鶴ヶ島版ネウボウ事業

—No.36 鶴ヶ島市—

【事業の目的】

若い世代が安心して子供を生み育てることができ、さらに、家庭と仕事の両立を実現することができるよう、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目ない支援を実施することで、子育てにふさわしいまちとして若い世代の転入増加・転出抑制を図り、まちに持続的な活力を生み出すことを目的とします。

【事業の内容】

助産師などの専門的な知識を有する相談員を配置し、妊娠届等の機会を通じて、全ての妊産婦の状況を把握します。その上で、妊娠・出産・子育てに関する各種相談に応じ、産前産後に利用できる様々なサービス等を情報提供するとともに、必要に応じて個別プランを作成し、継続的な支援を行います。また、出産後には、乳幼児健診などの機会を通じて、母子の状況の把握に努め、保育園や幼稚園、一時預かりなど、それぞれの希望に応じた子育て支援制度の利用にスムーズにつなげていけるようサポートします。

この相談支援を柱に、妊娠前から出産期にかけての支援として、不妊治療費の助成、産後の母子の心身ケアと育児サポートのための助産院などへの短期宿泊費の補助、助産師による母乳相談などの心身のケアを実施します。

また、子育て期には、養育が一時的に困難となった保護者のために、児童養護施設等で宿泊を伴って児童を預かるショートステイや、病気で集団保育が困難な子供を一時的に保育する医療機関の運営を補助する病児保育など、子育てと仕事を両立させるための取組を実施します。

【事業年度】

平成 29 年度～

【予算額(千円)】

25,028千円

【財源】

子ども・子育て支援交付金（国）、母子保健衛生費補助金（国）、利用者支援事業補助金（県）、乳幼児全戸訪問事業補助金（県）、子育て短期支援事業補助金（県）、病児保育事業補助金（県）、利用者支援事業（母子保健型）補助金（県）、一般財源（市）、負担金

【事業実施に至った背景・経緯】

近年、核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育てに不安や負担感、孤立感を抱える家庭が少なくありません。このような中、鶴ヶ島市では、第5次鶴ヶ島市総合計画において、「鶴ヶ島は、元気にする ～明日につながる活力のまち 支えあう安心のまち～」を市の将来像に掲げ、主要な政策の一つとして、子育て世代の支援の更なる充実に取り組んでいます。急速に進む高齢化と人口減少が懸念される当市では、人口減少の速度を抑制し、今後も安定的な人口規模を確保するとともに、人口構造の若返りを図ることが、活力あるまちであり続けるための課題です。この課題を解決するため、子育てサービスを充実させて、若い世代の転入増加・転出抑制を図るため、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援を柱とする鶴ヶ島版ネウボラを実施することとしました。

【事業のPRポイント】

鶴ヶ島市は、17.65 平方キロメートルと狭い市域の中に、児童と保護者が自由に利用できる児童館が4館あるほか、乳幼児親子が気軽に集まって交流できる子育てセンター等が5か所と、子育て関係施設が充実しています。

鶴ヶ島版ネウボラ事業では、市役所や保健センターに加え、児童館・子育てセンターなどにも相談員が訪問する予定です。

充実した子育て施設で子育てを楽しみながら、専門知識を持った相談員に気軽に相談を行うなど、これまで以上に安心して子育てができるまちになります。

【今後の展開】

平成 29 年度から配布を開始する、子育て情報を一冊に集約した「鶴ヶ島市子育てガイドブック」とともに、今後ともより便利で安心な子育て環境を整備していきます。

〔 連絡先 〕

秘書政策課 政策担当 049（271）1111（内線441）